



会長	小井田和哉	青少年奉仕	石橋 信雄
副会長	村井 達	幹事	深澤 隆
クラブ奉仕		会計	渡辺 孝
会長エレクト	小林 幹夫	会場監督	接待 一雄
職業奉仕	佐々木泰宏	直前会長	道尻 誠助
社会奉仕	橋本八右衛門	副幹事	正部家光彦
国際奉仕	妻神 和憲	会計補佐	紺野 広

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・広報委員長 菊地 幹 同副委員長 峯 正一
 同委員 村館 珠樹 同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2021~22 — 八戸ロータリークラブのテーマ

奉仕をしよう みんなの人生を豊かにするために

今できる親睦と奉仕を！

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

八戸ロータリークラブ会長 小井田 和 哉

10月 は 米 山 月 間 で す

第3202回例会 2021.10.20

▶ゲスト 劇団やませ代表 佐々木登美子さん

会長要件 小井田和哉 会長



感染対策をしっかりとって、今後も例会を続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

10月16日、17日に地区大会が開催されました。このコロナ禍での開催ということもありましてZOOMでの参加が多く、当クラブからは築館ノミニーと小林さんが現地で参加、わたしを含め他の参加者はZOOM参加になりました。

地区大会の記念品が届いております。成田ガバナーと島村吉三久パストガバナーの顔が入ったものが記念品です。いろいろと表彰があり、現地に行かれた方は現地で表彰を受けられ、それ以外の方は代理でわたしからお渡ししたいと思います。

きょうはいろいろありますので会長要件は来週にしたいと思います。これから例会を楽しくやっていきましょう。

地区大会各種表彰

- 奉仕活動優秀クラブ
- 奉仕活動優秀ロータリアン（ガバナー補佐推薦）：奈良全洋さん



- 奉仕活動優秀ロータリアン（クラブ推薦）：広瀬知明さん



- ・ガバナー特別表彰（在籍50年以上ロータリアン）：前原義一さん



- ・長寿ロータリアン（80歳）：村井 達さん



- ・新ポールハリスフェロー優秀ロータリアン：赤澤栄治さん、橋本八右衛門さん
- ・新米山功労者：岡崎孝文さん、小井田和哉さん
- ・地区大会にて表彰：新メジャードナー 築館智大さん

幹事報告 深澤 隆 幹事



2か月ぶりの開催で、理事会でいろいろご検討させていただいたところ、感染対策を少し強めて開催することに決まりました。今日の理事会で今後のプログラム等を検討したうえで、引き続き感染対策を取りながら開催して



参りたいと思います。各クラブごとにいろいろ考え方は様々で、積極的にやっているところもあれば、いまだに開催せずにオンラインや休会の形をとっているクラブもありますが、本クラブの在り方に対しては本日の理事会で検討して参りたいと思います。

委員会報告

親睦会場委員会 廣岡徹也親睦会場委員

○ニコニコボックスの報告

- ・誕生祝 廣田 茂・橋本八右衛門
赤澤栄治・道尻誠助
深澤 隆さん

- ・奥様誕生祝 渡辺 孝さん
- ・結婚記念日 広瀬知明・峯 正一
鴨澤 諭・中村稔彦さん

小井田和哉・石橋信雄 } 皆さん、お久しぶりです。
佐々木泰宏・川村幸雄 }
夏川戸 斉・山田慶次さん }

奈良全洋・妻神和憲 } ニコニコデー
熊谷清一・廣岡徹也さん }

地区大会報告

*築館智大さん

先日10月16日、17日に五所川原の地区大会に参加して参りました。時系列でいいますと、土曜日の午後、各種委員会が立ち上がりました。登録委員会、信任状委員会、決議委員会が開催され、その委員会でもまれたものを会長・幹事会で承認を受ける。そこで承認を受けたものを地区大会で承認するという形で10月16日は前半終了。午後にはR I会長代理のご講話をいただきました。この方はお坊さんなので、今のロータリーの話はあまりなく、仏教の教えの話が多かったですが、なかなか興味深く聞きました。

日曜日は開会セレモニーから始まり、いつも地区大会では来賓紹介、ゲスト紹介が20分くらいありました。地区活動報告、各委員会、会員増強、公共イメージ、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕、ロータリー財団委員会、青少

年交換委員会、インターアクト、ローターアクト、RYLA、米山の各委員会の地区委員長がこれからの方針を述べました。

次に表彰式。先ほど出席されなかった方がクラブ会長から表彰を受けたと思いますが、その中でも地区表彰で奉仕活動優秀クラブとして青森クラブと八戸クラブが表彰されました。八戸ロータリークラブの表彰はわたしの推薦、ガバナー補佐推薦でした。

前年度源新ガバナー年度のガバナー補佐でしたので、そのときに八戸クラブがハイブ

リッド方式を一生懸命にやっているの、コロナ禍の中で特筆すべきことということで、他のクラブはどこもほぼほぼやっていませんでしたので、これを範にして皆さんやってもらいたいということで、推薦しました。奉仕活動優秀ロータリアンの奈良全洋さんもわたししが推薦しました。本当に一生懸命やっただけでいるので、この人以外にはいないだろうということで、青森の木村さんと八戸の奈良全洋さんが奉仕活動優秀ロータリアンで表彰されました。表彰もすごく長いものでした。



「八戸小唄について」

劇団やませ代表 佐々木 登美子さん

先ほどご紹介ありましたように、わたくしは小学校の読み聞かせボランティアに参加しております。わたしは今、小中野に住んでおまして、小中野小学校のすぐ近くでございます。校庭での子どもたちの喧騒が聞こえるくらい近くです。小中野小学校の運動会は春5月に開催されます。これは小学校独自の運動会ではなく、地区の運動会、昔でいう町内の運動会というものと同開催がされております。ですから子どもたち独自の競技があり、赤白に分かれて点数を競っていますけれども、その間、間に町内の競技があり、また子どもたちと町内の大人たちが一緒に参加する競技があり、というふうにもいろいろバラエティに富んでいるわけです。その中に毎年必ず入っているプログラムがあります。それが八戸小唄です。

八戸小唄は小学校1年生から6年生まで全員参加です。もちろんその日参加している町内の大人たち、父兄の方たちもどうぞ一緒にということで大きな輪になりまして、八戸小唄を踊ります。1年生からですから4月に入学した1年生も5月にはもうみんなの踊りの輪の中に入るわけです。運動会の練習と一緒に八戸小唄の練習もいたします。高学年は

やっぱり上手です、毎年必ず踊りますので。

8月末に八戸小唄祭りが開催されています。ちょうど昔から行われている新町の夜店と同じ日程で、タイアップで実施されているわけですが、その八戸小唄祭りの流し踊りに高学年の生徒たちが参加します。卒業した中学生たちも任意ですが何十人かその日に一緒に集まって踊りの列の中に加わってくれます。ここ2年は八戸小唄祭りも新町夜店も開催されていないのですが、子どもたちの八戸小唄の練習は、去年はなかったのですが、今年は練習がされ、1年生から6年生まで生徒たちだけで踊っておりました。

そんなふうには八戸小唄にずっと6年間親しんでいます。小学校の学習目標の中に郷土を知ろう、故郷を知ろうという目標がございますので、先生方はこうして八戸小唄に馴染んでいるのであれば、八戸小唄をよく知ろうじゃないかということで、八戸小唄についてお話ししてくれませんかということで声をかけていただきました。わたしは八戸小唄の専門家ではありませんし、踊りもあまり上手ではありません。生徒たちと一緒に練習させていただいて、そこで八戸小唄を覚えたくらいです。唄といたら全くダメです。

また毎週のように読み聞かせのために小中野小学校にはお邪魔しておりますので、お話

のついでに、読み聞かせの延長ということでお話ししようかなということで、ほいほいと引き受けたわけです。去年ができなかったので、今年も運動会の前に、1年2年生ではちょっと難しいので、3年生ならできるのではないかということで3年生の子どもたちへのレクチャーということでした。去年できなかった分、今年は3年生、4年生の2学年合同でお話をしました。

八戸小唄はいつ、誰が作ったの？八戸小唄ができたのは昭和6年なんです。昭和6年っていいまでも、子どもたちにとっては全然想像ができない年なんです。昭和という時代がまったく過去のもので。1931年だよ。さあ、何年前でしょう？子どもたちは計算が早いです。90年前。そうです。八戸小唄ができて90年なんです。これは正真正銘の卒寿です。改めて子どもたちとお話ししてそのことに気がつきました。そうだ、今年は八戸小唄ができて90年なんだな。

どうして八戸小唄ってできたの？それはね、その2年前の昭和4年に八戸市が生まれたからだよ。八戸市が生まれたといっても、ここからポコッと生まれたわけではございません。八戸町、小中野町、湊町そして鮫村が一緒になって「大八戸」が建設されたわけでございます。市に昇格するタイミングとしては青森は弘前よりもずっと遅く、そういうところがこの土地の皆さんの気質ともいえるのではないのでしょうか。合同で大八戸市を建設しようというお話は何度も何度も持ち上がりながら、なかなか実現には至りませんでした。

大正15年にちょうど郡役所が廃止になるタイミングで、その郡役所を去る郡長がこういうタイミングでもあるし、八戸市なんとなかならないかなということでご尽力なさり、それを機にじゃあ何とか大八戸建設のために皆で勉強しようということで、あちこち視察に行ったりしました。それでも3年3か月の時間を要してやっと昭和4年5月1日をもって八戸市が建設されたわけでございます。

その時の初代市長は近藤喜衛さんという方です。本当は皆さんこそって北村益さんに市



長になって欲しいということで切望したのですが、北村さんはおれは引退した身だからということで固く辞退なさったわけです。その北村さんのご推薦もあって近藤喜衛さんが初代市長になりました。今ではちょっと考えられないような、いろいろな事情がございました。大人の事情、政界の事情といいますか。市長が決まるまでも半年近く時間がかかったのですが、市長になって半年で失脚させられた。では次の市長はということでまたすったもんだやって、2代目市長になったのが神田重雄さんです。昭和6年は神田重雄さんの市長時代です。

子どもたちには作詞〇〇、作曲〇〇という印刷物が渡してありますので、作詞は法師浜桜白さん、作曲は後藤桃水さん。本当にこれを作りなさいといって、作ることを始めたのは神田重雄さんという当時の市長さんです。みんなグレットタワーのところへ行って、下に着物を着たおじさんがステッキをついて立っているのを見たことがあるでしょう。あれが2代目市長の神田重雄さんですよ。そういたしますと、小中野の子どもたちはあそこまで遠足に行きますから、うんうんうん。そういう意味でも自分たちの体に身について、地域に身についたそういう歴史を学ぶことができるのではと思ったわけです。

そういうわけで90年経ったこの八戸小唄。本当であれば先ほど言いましたように八戸小唄祭りがありますし、三社大祭がありますし、各地の盆踊りがあり、そういうところで八戸小唄は何度も唄われるでしょうし、そういう話題にもなるでしょうが、ここ2年は全然そういうことがございませんでした。話題にな

らずに卒寿を迎える。それであれば、ここで一つお話をして、90年になるんだということをご皆さんにご紹介したいということで、きょう八戸小唄の話題を取り上げたわけです。

八戸小唄ができたきっかけは昭和6年2月3日に、皆さんご存じの、今はなき鮫の石田家で行われた八戸を語る座談会という席でした。これは東京日日新聞社という地元にも支局のある新聞社の主催で行われました。芸者さんを2人加わってもだいたい10名くらいの人で、市の市議会議員が2、3人と地元企業の代表の方が集まっていろいろお話をした中で、芸者さんも加わっているものですから、まあ八戸をどんどん売り出していかなければならない、八戸にもしお客さんが来たときに紹介するような唄はあるかね。

芸者さん方はいろいろ紹介する唄はいろいろあるけれど、はっきりとこれが八戸のというのはなかなかないですね。それにちょっと品の良くない部分もありますし。なんといってもこの機会になにかいい唄を作るなり、なんなりしてくれたらいいんじゃないですか？というような話がそこでありまして、神田市長さんもそれはいいアイデアだということが座談会の中であったわけです。

そこに出席していた法師浜桜白さん、そのときはまだ桜白ではなく直吉でした。記者さんで市役所のいろいろな取材のためにも市長さんのもとを時々訪れるわけです。8月頃になって、市長さんこの間の座談会で話したあの話はどうなりましたか？いかがでしょうねと水を向けましたら、市長さんがやろうじゃないか、お前が詩を書け。というふうにならされたわけです。法師浜直吉さんは20代後半で俳句の宗匠になられたくらい、俳句をよくやられる方ですし、詩や俳句をお書きになる方ですから適任といえば適任だったと思います。法師浜さんは市長に言われましたので作詞をしました。1、2か月かかったということです。

それと同時に作曲を依頼しました。後藤桃水さんという方は仙台の方でございます。この方もたいへんな方でございます、調べま

したら“日本の民謡の父”といわれる。本当は尺八奏者の方なんです。エピソードとしては尺八を片手に編み笠を被って虚無僧になって各地で民謡を取材して歩いたというふうな、嘘か誠かわかりませんが、そういうエピソードが残っている方です。いわゆる各地に残っていた労働唄であった地元の民謡をきちんとした唄として表舞台に出した方と言われています。

その方に作曲を依頼してドッキングして、できましたと持ってきたのが昭和6年11月頃です。やはり石田家さんに行きました。今みたいにちゃんと譜面に起こしてはございません。桃水さんがお持ちになったのは尺八の譜面でした。尺八で吹いてみた。次に手拍子で唄いながら芸者さんたち、鮫と小中野の見番の芸者さんたちを集めて、そこで唄をレクチャーするわけです。芸者さんたちはそれに合わせて自分たちで三味線を弾いて演奏を練習する。さらにそのとき一緒に踊りの振り付けの方も連れてきていたので、振り付けはこうだよと教えながら、芸者さんたちもそれを聞きながら、さらに自分たちの踊りをいいように変えながらということで、八戸小唄をそこで作り上げたわけです。

その頃の八戸小唄の唄は、今申し上げた通り、お客様が来たときに芸者さんたちが舞台上で踊って見せるための踊りですから、今の流し踊りのように前に進まないわけです。舞台上の踊りだったわけです。そう考えますと、わたしも子どもの頃、地域の盆踊りで八幡馬などを踊るのですが、八戸小唄になるとなかなか進まない。ただし、わたしたちが踊っていた八戸小唄もその時に教えられた踊りとはたぶん違っていたと思います。お聞きしますと各地域で八戸小唄の踊りは少しずつ違っていたようです。後にこれを正調八戸小唄として保存しようということで、しっかりと踊りが決められた。また流し踊り用に私たちが今踊っている八戸小唄の踊りが、踊りの先生たちの間で決められたわけです。

たぶん議員さんに対してだと思いますが、でき上ったよといってお披露目をしたのが昭

和6年暮れ12月頃だった。ですからぎりぎり昭和6年がスタートの年ということになるわけです。一般の方にお披露目されたのが翌年春の観桜会で、お花見で披露されました。確かその後、仙台のNHKからラジオ放送になったと思います。レコードに吹き込んだのはさらにその翌年の昭和8年。いい唄だということで広まっているので、いろんなところからうちでレコーディングしてくれという引きがあったそうです。その中から歌手を決めるのも大変なので、芸者さんの中からピックアップしてこの人とこの人という形での吹き込みが最初だったというふうに聞いています。今わたしたちはイメージとしては三橋美智也さんの八戸小唄がイメージとしてあります。そういうふうにレコードは今までに何度も何度も吹き込みされています。

八戸小唄の歌詞を紹介すると、途中の間奏の部分が鶴さん亀さん、鶴さん亀さんと皆さん唄いますが、最初の唄の中には鶴さん亀さんはいません。たぶん三味線でやりますとツルテンツルテン、チリシャンチリシャンがなまったものではないかなと想像できます。が、実はこの「鶴さん亀さん」問題というのがあります。昭和29年頃だそうですが、八戸小唄の曲はそのまま全然違う歌詞で「鶴さん亀さん」という唄が発売されたそうです。これはけしからんということでクレームをつけ、結局それ以降はこの曲を紹介するときには、これは「八戸小唄の替え歌でございませう」という断りを入れるということで決着がついたようです。

でもそのせいなのかどうか、昔からわたしたちも子どもの頃からそうですが、間奏は鶴さん亀さんというふうになっていたわけです。でもそれを聞いたら、何となく鶴さん亀さんといいくくなりました。これは子どもたちの前では鶴さん亀さんはいません。これは間奏の場合はきちんと間奏だけを聞いて踊るようにと指導しています。

そんなふうにして紆余曲折があって、作詞は法師浜桜白さん、作曲は後藤桃水さんということで製作されたこの曲ですが、実は一番

スタートの頃に作詞 法師浜桜白さんというふうにはなっておりませんでした。法師浜さんは自分は一記者であり、依頼されて作っただけでも表に出るべき立場ではないから作者神田重雄さん、北村益さんなど有名な方の名前を入れて、これを共同制作というふうにしたらどうかという提案もしたりして、しばらくはどなたの作詞なのかを明確に表には出していなかったようです。

そういう関係でいろんなところで作詞は俺だとか、作詞は〇〇と違う情報がいろいろ行き交っていて、このままではいけないということもあり、途中で昭和35年にきちんと明らかにした。これはJASRACに登録したり、あるいは文部省に八戸小唄として認定してもらうために、ちゃんと作詞だれだれと認定してもらうために文部省の審査を受けて、それで初めて昭和35年に作者は〇〇ですということをはっきりさせたわけです。今はこれらはみな八戸市に寄贈されております。42年にこの曲は八戸市に寄贈されました。曲の方は2020年で著作権が切れておりますが、作詞のほうは作者の方がお亡くなりになってから50年が規定なので、2029年まではまだ歌詞の著作権は切れていないようです。

完成して90年となった八戸小唄、今いろんな方が編曲したり、バージョンを変えて歌ったりもしています。いい曲だと思います。またみんなで踊って、これからもどんどん盛り上げていく。元々が八戸を紹介するために、子どもたちは八戸のCMソングだよというふうに紹介しましたが、これを基にこれから先の八戸市を盛り上げていきたいと思っております。

